

『凄六』 (SUGOROKU)

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

沖田 (女…二十五歳 担当 音楽)
 永倉 (男…三十二歳 担当 化学)
 斉藤 (男…三十七歳 担当 体育)
 松原 (男…二十三歳 担当 数学)

闇の中に声が響く。

沖田 (声) 取扱説明書。…対象年齢、十三歳以上。プレイヤー数、四名。セット内容、双六盤、賽子、駒、本説明書。…すべてのマスには銀はがしの要領で命令が書かれています。そこにかかれた命令に従いながら、あがりまで辿り着いて下さい。…命令をクリアしなければ、次のプレイヤーは賽を振ることが出来ません。…一度開かれたマスであっても、止まったマスの命令には従って下さい。…アガリはオーバーしても構いません。…なお、途中棄権は出来ないのをご注意下さい。

職員室に四人の教師。

赤、青、黄、緑の四色の双六の駒が置かれ、沖田、永倉、斉藤、松原の四人が重い空気の中、双六をしている。四人は憔悴しきった表情。松原は無精髭を生やし、

腹痛を煩っている。

斉藤 『もう一度賽子を振り、出た目の数だけ戻る』。
 沖田先生、もう一回だ。

女性教師の沖田は、斉藤に手伝われながら、大きな賽子を転がす。因みに沖田は、

斉藤 三(実際に振って出た目の数を言う。以降同様)。

沖田、自分の駒を持つ手を、じっと動かさずに思い詰めた表情。

斉藤 沖田先生。三マス戻して。

沖田、動かそうとしない。

斉藤 沖田先生。
 沖田 …嫌!

沖田、自分の駒にしがみつくが、まるで駒が沖田を引きずるようにして三マス戻る。

沖田 …いつまで続けるの?

問。

沖田 いつまで続くのよ、こんなこと。

斉藤 あがりに辿り着くまで。ルールは何度も説明した。…銀を剥がして。

沖田、銀を剥がす。

松原 『日本国憲法の全文を暗唱する』

永倉 ゼンブンってどっち? 前?

松原 …全て。

沖田 できるわけないだろ! ふざけないでよ! もう嫌!

沖田、感情に任せて泣き叫ぶ。

斉藤 …どうだろ。今日はここいらが限界みたいだ。続きは明日に。

松原 …じゃあ、駒の位置記録します。

永倉 それ、俺がやとくから。松原先生、今日、飯番。

松原 あ、はい。イテテ。痛み止めまだ保健室に残ってたかなあ。

斉藤 毒なんか盛るんじゃねえぞ。

松原 一番苦しそうなに入れておきますよ。

松原、職員室を出る。

永倉 ただの憎まれ口でしょう。四人の誰が欠けても困ることは彼も重々心得ているはずで

すし。

沖田 来る日も来る日も賽子振って、駒動かして、

賽子振って駒動かして賽子振って！ いつまでこんなこと続けなきゃいけないのよ。

齊藤 沖田先生。悪く考えん方がいい。あがり

に辿り着けば終わりは来るから。もう一度太陽を拝める日が。

沖田 それだって根拠があるわけじゃないでしょ。

齊藤 眩しいんだろうなあ。目潰れるんじゃないか。

沖田と齊藤、職員室を出る。永倉、自分の席に座り、天井を見つめている。煙草を吸おうとするが、空箱で、永倉はそれを壁に投げつける。

永倉 太陽か…。

回想。職員室。机の上にはスナック菓子や酒類が置かれている。全員、まだ普段の自分を失っていない。沖田、駒を進めて、財布から一円玉を出し、銀を剥がす。

沖田 『やらに四マス進む』。ふー。

松原 幸先いいスねえ。

齊藤 普通の双六だよ。脱ぐ系とか多分入ってないだろう。それはそれでつまらないけど。

沖田 松原くーん。これ、四つ進んだマスの銀も剥がすの？

松原 ええと、ちょっと待って下さい。取説取説。

松原、取説を読む。

松原 ああ、そつみたいですね。

沖田 ええ？

沖田、銀を剥がす。

齊藤 『十秒以内に「赤巻紙青巻紙黄がきまき」を三回言う』

沖田 先生言えてないし。

齊藤 じゃあ測るよ、せえの。

沖田、赤巻紙青巻紙黄巻紙を早口で三回言う。十秒以内に言えるまでやり直し、言えたら終了。

沖田 はい次、永倉先生。

スピーカーから鐘が鳴る。全員、素早く酒類を隠し、仕事をしているポーズ。

沖田 誰か放送室にいるんじゃないんですか？

齊藤 いや、見回したときは誰も…。普段なら野球部や居残り研究会が残っていてもおかしくない時間帯なんだがな。

松原 ちょっと見て来ます。

松原、走って職員室を出ていく。因みに放送室は職員

室の隣にある。

齊藤 別にまだ金動かしてないし。

沖田 教師が双六でお金掛けてたなんてバレたらどうなるか…。

永倉、賽を振る。

永倉 二(出目)。

松原、戻って来る。

松原 中、誰もいませんね。鍵かかっているし。

沖田 放送部の子が消し忘れてったのかな。後で消してきます。

齊藤、賽子を見つめながら、誰の所有物なのかと独り言を呟いている。

永倉 『三回回ってワンダホーと言う』？ 大したこと書いてねえな。

永倉、指示に従う。クリアした所で再び鐘が鳴る。

沖田 チャイム壊れてるのかな。

永倉 齊藤先生。

齊藤、駒を振り、止まったマスの指示を読み上げた後、

指示に従う。するとやはり鐘が鳴る。

齊藤 (急に大きな声で) 沖田先生！

沖田 ヒッ！

松原、沖田の驚きを見て笑い転げている。

沖田 酷いじゃないですか、齊藤先生。

齊藤 沖田先生、結構恐がりだな。

沖田 恐がりじゃなくて驚いたんです。ジェイソンと同じですよ。

松原 言い訳してますね。

沖田 ほら、次松原先生ですよ。

松原 はいはい。怒られた。

松原、駒を振り、止まったマスの指示を読み上げた後、指示に従う。クリアする直前、わざと躊躇ってみせて、スピーカーに時間差攻撃。数秒待った後、クリアすると、やはり鐘が鳴る。四人、呆然とスピーカーを眺めている。

齊藤 …やっぱり誰かいるんだよ。松原先生が行った時、隠れてたんじゃないか。教師をからかうとは。

沖田 でも何でこっちの声が聞こえるの？

永倉 悪戯同好会の仕業でしょ。どうせ。

松原 まずいですよ。生徒に見られてたとしたら。

齊藤 俺が見て来る。…そうだ。次、沖田先生の

番だったね。続けてくれる？

沖田 はい。

齊藤 永倉先生、今度また鳴ったら、大きな声で

知らせて。

永倉 へいへい。

齊藤、駒を振り、止まったマスの指示を読み上げた後、指示に従う。するとやはり鐘が鳴る。

永倉 (廊下に) 鳴りましたー。

沖田 マジ？

齊藤、戻ってくる。

松原 間違いないですね。あのチャイムはこの双六と連動しています。

齊藤 何、この双六。

永倉 これ、何処にあったの？

松原 双六同好会の部室に。

沖田 …やめますか？

齊藤 いや、面白い。続けるよな。松原君。

松原 当然！

齊藤、賽子を松原に渡そうとして持ち上げるが、動かない。

齊藤 ん？ あれ？

松原 どうしたんですか？

齊藤 賽子が持ち上がらない。

松原 え？

松原が賽子を持つと簡単に持ち上がる。

齊藤 ？

松原 今のギャグか何かですか？

齊藤 いや…。

松原 じゃあいきます。

松原、賽子を投げ、駒を動かし止まったマスのお題を読む。

沖田 『誰かの縦笛を吹く』

松原 縦笛？

永倉 ここには俺と齊藤先生しかない。

沖田 何言ってるんですか。音楽で生徒が使ってる奴でしょ。

松原 ああ、リコーダー。

齊藤 生徒の机ん中にあるでしょ。これは楽なお

題だね。

松原 探してきます。

松原、出ていく。

齊藤 …昔の生徒が作ったんだな。いかにも子供

が喜びそうなお題だ。

沖田 でも、教え子の縦笛舐めるって、セクハラ

齊藤 ですよ。
 松原 セクハラ研究会でもそこまでしないよ。
 齊藤 ありました。
 松原 永倉先生やった口でしょ？ 子どもの頃。
 齊藤 放課後誰もいない教室で。
 永倉 俺はブルマでしたね。
 齊藤 ブ…。舐めるの？
 永倉 いやいや、匂いだけですよ。
 沖田 今でもやってそう…。
 永倉 そんなにしてません。
 沖田 変態。
 松原 あの、僕は仕方がないから吹くんですよ。
 齊藤 とか言いながらその縦笛はミスみぶろ中、
 永倉 二年五組の城野まどかのじゃないか。
 松原 ホントだ。
 永倉 ええ？ 気づかなかった。たまたま見つけ
 沖田 ただけで。
 沖田 二年五組って確か。
 永倉 四階の端。
 齊藤 全力疾走して行って戻って来たのか？
 沖田 え？ 狙ってたとしてもこの短い時間に席
 永倉 を探すなんて…。
 永倉 だから、知ってたんでしょ。城野まどかの席。
 齊藤 松原先生。
 沖田 最低。
 松原 そ、そんなわけないでしょ！ 落とし物入
 れの中にあつたのを適当に取って来たんで

齊藤 …。
 松原 何ですかその目は。本当に知りませんよ。
 松原、リコーダーを吹く。
 時間経過。結構飲んだ跡。
 沖田 (駒を動かす) 一、二、三。
 お題を黙読。
 沖田 ええ？ …こう？
 沖田、お題の『苦笑いをする』を実行。鐘が鳴る。
 沖田 よし、クリア。
 齊藤 (沖田の止まったマスの命令を黙読) ああ…
 (それで沖田が苦笑したのか)。いいなあ楽
 なお題で。
 松原 …僕、そろそろ帰ります。
 沖田 何よー。途中棄権なしでしょ。
 松原 だって、これ、いくつマスあると思っ
 齊藤 てるか。何日あつても無理スよ。
 永倉 まだこんな時間だよ。
 永倉 あの時計、止まっていますよ。六時なわけ
 沖田 ないですし。
 沖田 じゃあ、お開きにしましょっか。

永倉 チェ。そろそろ脱衣系来ると思ったのにな
 沖田 あ。
 永倉 …。
 沖田 何？
 松原 いえ。松原先生。急いでるんですけど、い
 沖田 いですよ。ここ片づけておきますから。
 松原 いいですか？ すいません。お疲れ様した。
 齊藤 頭痛て。
 沖田 お疲れー。
 松原、千鳥足で職員室を出ていく。
 齊藤 久々にムキになって遊んだなあ。
 沖田 永倉先生、こんな遅くなって、奥さんに怒
 永倉 られません？
 沖田 俺、独身。
 沖田 ああ。
 永倉 ああ？ 何その、ああ。
 沖田 いえ。意味は。
 永倉 顔ーん。
 沖田 …。
 永倉 嫁さんに逃げられたんだ。
 沖田 ああ。
 永倉 だから何その『ああ』は？
 沖田 いえ、別に…。
 永倉 そう。ていうかさ、自分の方こそいいの？
 時間。

沖田 別に。ひとりですから。

永倉 あ、ひとり暮らし。じゃあ、この後沖田先生の部屋で、ふたりに飲み直しだな。

沖田 何言ってるんですか。

永倉 いやさ、うち、今、風呂使えないから。

沖田 何勝手に風呂使おうとまでしてるんですか。

永倉 質に入れちゃって。…何？ 男が待ってる

とか？

沖田 いいえ。

永倉 ならいいじゃねえか。風呂貸せよ。

沖田 貸せよ？ 全然親しくもないのに、何馴れ

馴れしく。…永倉先生ね、評判悪いですよ。

そんなだから…。

…何？

沖田 いえ。

永倉 そんなだから何？

沖田 …前の学校にいられなくなったんじゃない

んですか。

…。

沖田 校長と知り合いだそうですね。羨ましいコ

ネクションをお持ちで。

永倉 コネクションって。またそんな難しい言葉

使って。

沖田 別に難しくないでしょ。…前の学校で、何

やらかしたんですか？

永倉 まあね。

沖田 生徒をつまみ食いした。

永倉、不敵に笑う。

沖田 …最低。

永倉 そんな勇氣ないよ。自分の教え子がひとり

不登校になった。

沖田 で？

永倉 それだけ。

沖田 それだけ？

永倉 いなかったんだ。それまでその学校では。

珍しいだろ。今日日不登校の生徒がいな

い学校なんて。学校側がさ、今までそんな生

徒は出なかったのに、これは担任の責任だっ

つってよ。その学校で俺教鞭振るえなくなっ

た。

沖田 それだけで？ 何か不登校の原因になっ

てるんじゃないの？

永倉、沖田を睨む。

沖田 何よ？

永倉 学校側はそういう見解なんだろうな。

沖田 ？

永倉 でさ、失業したと思えば、嫁さんにも逃げ

られてさ。人生上手くいかないわ。沖田先

生は他の男にプロポーズされるし。

沖田 何で知ってるんですか。

永倉 オッケーするの？

沖田 永倉先生に答える義理はないと思いますが。

永倉 ないよね。

永倉、壁の時計で時刻を確認。七時三十五分。

永倉 あの時計、止まってる？

沖田 え？

永倉 九時回ってるだろ。幾らなんでも七時半な

わけ…。

永倉、腕時計を確かめる。

永倉 あれ？

沖田 七時三十五分ですけど。

永倉 合ってるのか？

松原(声) うわあ！

問。

沖田 今の松原先生？

沖田と永倉、走って出て行く。

四人の時間で半日程経過。

斉藤、トランシーバーを持っている。

沖田 (トランシーバーに) わかった。ありがとう。

松原君、戻って来て。
どうだった？

沖田 新校舎の一階は全部駄目って。

齊藤 そっか。松原先生の言った通りだな。

沖田 どういうことなんです？ 松原先生の話、いまいち把握できなかったんですけれど。

齊藤、ホワイトボードに図を書く。

齊藤 うちの学校は校舎がカタカナのコの字になってて、開いてる一边を塞ぐように体育館が建ってる。例の見えない壁は校舎を四角く囲むように存在してる。だから中庭には出ることができると、体育館には行けない。校舎と中庭。それが我々に与えられた領域…。

沖田 どうなってるの？

永倉 …この双六のせいじゃないですか。

齊藤 は？

永倉 要はアガリに辿り着くまでここから出ることができないってことです。最後まで諦めずに頑張らしましょう。

沖田 そんなわけないでしょ。

永倉 普通に考えればね。

齊藤、窓の外を見ている。

齊藤 すぐそこには外は存在するのにな。これじゃ

映画のカキワリと何ら変わりやしない。

沖田 これって、閉じこめられてるってこと？

永倉 ですね。

沖田 いつまでももたないよ。第一食べ物なんか…。

齊藤 購買部と食堂に幾らかはあるだろうし。

永倉 それと調理実習室と。教師の準備室にも何かあるかも知れない。

齊藤 米俵研究会の部室に米俵があったはずだ。

松原 そんな部があるんですか？

齊藤 去年は県大会ベスト4まで行ったらしい。

沖田 あと、家庭科室にもあるし、教員の準備室

にはみんな冷蔵庫持ち込んでますよ。

齊藤 最低限の生活は保障されてるわけか。とにかく、ここには四人しかいないんだ。ふたりが戻って来たら、いろんなこと決めないとな。

時間経過。
沖田、松原、斎藤が双六を継続中。
永倉、煙草の箱を沢山抱えて登場。

松原 どうしたんですか、それ。
宿直室にあった。用務員さんが買いだめしたみたいだな。あ、クリアしたの？

永倉 そうやく、私の番だ。

沖田 何巡回なんだろ。時間は止まってるけど、

齊藤

計算では七日経ってるんだよな。七日で全体の三割も進んでないなんて。

永倉 ま、時間は腐る程あるわけだし。のんびりいくしかないでしょ。

沖田、賽を振り。出た目の数駒を進め、銀を剥がす。

松原 『今後一度だけ、全員の駒を先頭の駒のいるマスまで移動できる』？ え？ あ、成程。

齊藤 いいぞ。ということは私ら三人が松原先生の

いる所まで行けるわけか。

沖田 これでみんな一気に進みますね。よし。じゃ

…。

永倉 言うな！

松原 何ですか？

沖田 いいよ、松原先生、聞かなくて。

永倉 いいから聞け。

沖田 命令しないで。

永倉 この双六。同じことが書かれてるマスは今

までなかった。多分、残りのマスも全部そ

うだ。

齊藤 ああ。で？ 何？

永倉 その全員の駒を先頭の駒のいるマスまで移

動できるっていうのも、おそらくここだけ

だ。

松原 で？

永倉 その権利を取っておくんだ。そうしたらこ

沖田 次松原君。

沖田 嘘？ 松原君か？

松原 急ぐって別に何も…。

松原 そのか。今までだと、さっきみたいなの『誰か』を五〇マス戻す』なんてマスに当たった場合、遅れてる人をアガリから遠ざけるわけにいかなかったから、一番進んでた永倉先生が犠牲になったけど、これからは、

松原 だって今斉藤先生の番だったでしょ。

松原 早く賽を振らなきゃ、まずいことでもあるのか。

松原 ひどりが頑張ればいい。

永倉 成程。こういうことか。

松原 な、ないですよ。いい加減にして下さいよ！

松原 沖田先生、取っておきましょう。

永倉 ああ、で、何で次が松原君なんだ？

松原 疲しいことがないなら何故そんなむきになるんだ。君の背後で誰が糸を引いている？

松原 …。

永倉 めた時から。

松原 沖田先生助けてよ。

永倉 相当嫌われてるんだな。

沖田 うわ、この先鬱陶しそつ。

永倉 松原先生で合ってるんです。

沖田 …。

沖田 今、「仏教思想」って言わなかったか？

松原 ははん、さては誰かを庇ってるな。そつだろ、松原先生。…ていうか、自分、松原先生か？

松原 『この先、疑り深くなる』

松原 こつちが聞きたいよ。

松原 何言い出すんだ、この親爺。

松原 何これ。どういふことスかねえ？

沖田 言っていないですから。

松原 分の周りの人間がほかの星から来た生き物に乗っ取られていく話。(あさつて) おい、そこにいる奴、出て来いよ！

松原 鐘が鳴る。

松原 じゃあ投げます。

沖田 誰もいませんつて。いい加減にして下さい。

松原 鐘が鳴る。

松原 ちよつと待て。

沖田 誰もいませんつて。いい加減にして下さい。

松原 鐘が鳴る。

松原 ちよつと待て。

沖田 誰もいませんつて。いい加減にして下さい。

松原 鐘が鳴る。

松原 ちよつと待て。

沖田 誰もいませんつて。いい加減にして下さい。

松原 鐘が鳴る。

松原 ちよつと待て。

沖田 誰もいませんつて。いい加減にして下さい。

松原 鐘が鳴る。

松原 ちよつと待て。

沖田 誰もいませんつて。いい加減にして下さい。

松原 鐘が鳴る。

松原 ちよつと待て。

沖田 誰もいませんつて。いい加減にして下さい。

松原 鐘が鳴る。

松原 ちよつと待て。

沖田 誰もいませんつて。いい加減にして下さい。

松原 鐘が鳴る。

松原 本物か…。

松原 『人生最大の罪を告白する』

松原 じゃあいいんじゃないスか？ 鐘も鳴ったんだし。

松原 … 賽子すり替えたように見えたから。

松原 多分、適当なことを言っても鐘は鳴ってくれない…かな。

松原 嘘？ 鳴ったか？

松原 どうやって？ こんな、でかい！

松原 始めて下さい。沖田先生。

松原 今鳴ったでしょ。

松原 私を疑ってるのか。

松原 始めて下さい。沖田先生。

松原 ええ？ 鳴った？

松原 疑ってるの先生でしょ！ もう投げますよ。

松原 始めて下さい。沖田先生。

松原 今鳴ったでしょ。

松原 疑ってるの先生でしょ！ もう投げますよ。

松原 始めて下さい。沖田先生。

松原 今鳴ったでしょ。

松原 疑ってるの先生でしょ！ もう投げますよ。

松原 始めて下さい。沖田先生。

マスを見て確認。

沖田 人生最大の罪？ 何でこんなこと話さなきゃならないの…。

齊藤 勿論、誰にも言わないから。

沖田 ええ？ でも…。

齊藤 何だ、疑り深いな。

永倉 あんただろ。

沖田 …中学のときに、いじめがあつて。私も一緒に…になって、いじめのグループにいて。その子、転校生だったんだけど。その子に一万持って来いって言って。それで化粧品買って。みんなに虐められてたから、その子すぐに転校して、それは一回だけなんですけど。

三人 …。

沖田 話しました。

松原 …鳴らないな。

沖田 でも話しました。

永倉 だから鳴ってないんだって。

齊藤 それは先生にとって本当に一番の罪なのか。

沖田 え？

齊藤 もっと罪深いことをほかにやってるんじゃないのか。

沖田 もっとって。

永倉 一つになく鋭いな。齊藤先生。この鐘ってさ、どういう仕掛けで鳴ってるのか知らないけど。

どよ。知能があるみたいだ。ここにいる四人の心の中を見透かしてる。沖田先生言っていましたよねえ。何か目線みたいなのを感じてるって。

齊藤 え？

永倉 もしかして、このゲーム自体が俺らのことを監視してるんじゃないか。

松原 そんな非現実的…。

永倉 わかってるよ。自分でも言ってるばかばかしいんだ。じゃあ松原はこの状況をどう説明するんだ。

齊藤 まあまあ。理由なんて誰にもわからないじゃないか。

永倉 で、どうなんだ。

沖田 な、ないわよ。

齊藤 ここであつたことはみんなゲームが終わったら忘れること。沖田先生、確かに罪深い過去なんて、無駄毛処理の最中くらい覗かされたくないだろうよ。けど、ずっと黙ったままじゃ、日は昇らないんだよ。

沖田 だから私は。

齊藤 それともここに永住するの…？

永倉 まともなのか、おかしいのか、判別つかんな、この人。

沖田 あつても覚えてないのよ。

齊藤 本当か。言えないだけなんじゃ。

沖田 どうしてそんなこと言うんですか。

齊藤 沖田先生のためなんだよ。

沖田 …高校の頃、友達とグルになって、同じ塾通ってた大人しい子を脅して、援交勧めた。私らはその仲介料を1万ずつ貰った。

永倉 やっぱあるんじゃない。

松原 何なんだよ！ この双六！

永倉 何なんだよ！ この双六！

齊藤 わ、若い頃の過ちは誰にだってある。お、俺だって一度はグルになろうと考えたことも…。

永倉 意味が違う。

沖田 慰めはよしてよ。明らかに狼狽してるじゃない！ みんなだつて心の中では軽蔑してるんですよ。

永倉 そうだよな。可哀想なのは売春させられたクラスメートで、沖田先生はただの加害者なんだ。

松原 永倉先生！

齊藤 でも何でもみんなの過去がこの双六にはわかるんだ？ 人格が備わってるとしか思えない。

沖田 早く次振ってよ！ とつとと帰りたいのよ。

永倉 それが…、(賽が)持ち上がらない。

沖田 …何言ってるのよ。

沖田、永倉の代わりに賽を持つとすると、重くて動かない。

松原

そう言えば、鐘も鳴ってないですよ。

沖田

どうして？ 私、話したじゃない！

齊藤

沖田先生、あるんじゃないのか。もっと酷い罪が。

沖田

ないわよ！ これ以上。

松原

だけど、鐘が鳴らない以上、確かに先生の番はまだ終わってないってことに。

永倉

鐘はここまで正確でした。

沖田

ないって言ってるじゃない。その後は、まともにやってきたんだから。昔の友達とはみんな縁切って、過去隠して、大学でもちゃんと勉強して、誰に後ろ指指されることもなく、教師ってまともな仕事に就いて、生徒相手に授業してるじゃない！

鐘が鳴る。

齊藤

…鳴った。

沖田

…遅れることなんてなかったのに。

永倉

今、言ったからでしょ。

沖田

何よ！ どういう意味よ！

永倉

先生が子供を教育することが、一番の罪だということか。

松原

永倉先生！

永倉

俺じゃない。この双六の代弁をしたままだ。

沖田

あそ…。あそ…。

齊藤

ただ遅れてただけだ。気にするな。

険悪なムードの中で双六が続けられる。

時間経過。沖田の駒がアガリ直前まで来ている。

松原

…どうとう、ここまで来ましたね。

齊藤

沖田先生。

沖田、賽を振る。

三人

五(出目)！

沖田、数を数えながら駒を進める。

齋藤

おお。次に二以上が出たらアガリ…。

松原

さあ、先生、銀を剥がして。

齊藤

ここまで来れば、酷い内容の命令が書かれてても、恐くないな。

永倉

怖いよ。

松原

怖いですって。

齊藤

何だよ、そんな。…怖いよ。うん。怖いけどさ。

沖田、微笑む。

齊藤

さあ、先生。

沖田

こんなにドキドキすること、最近なかった。

松原

先生、早く。

沖田

ようし。

全員、見つめる。

齊藤

『ふりだしに、戻る』

永倉

ふりだし…。

間。

齊藤

あれ、目が疲れてんのかな。

沖田

ははは。

松原

僕が読みますよ、えーと、『ふりだしに、戻る』

間。

松原

あれ、目が疲れてんのかな。

沖田

ははは。

齊藤

俺が読もう。えーと。

永倉

もういいって！ 逃避するな。

松原

…そういえば、今まで、これなかったなあ。

永倉

何となくそんな気がしたんだよな。五(出目)

沖田

が出たときに。

沖田

もう嫌！ 何で、こんなこといつまで続けないかなんないのよ！ 馬鹿にするのにも

程があるわ。ここまで来るのに一体、何日

松原

かかったと思ってるのよ。くそ！

松原

沖田先生って、ホント引きが悪いですよ。

沖田 (松原の襟首を掴んで) そんなこと言うん

だったら、ここまで来てから言えよ!

松原 ここまで来たってあがれなきゃ同じだよな
あ。

沖田 あんた、まだ一度も半分超えてねえじゃね
えの。あ? ホント、よく言うよ。ひとつ
のお題クリアするのに六日もかかったくせ
によ。

松原 だって『浮く』なんてお題、時間かかって
当然だろ。てか、普通頑張ったって浮かな
いよ!

永倉 もう一度頑張ればいいだろ。

沖田 もう一度? 次もまた同じ所に止まった
ら?

永倉 そのときはまた。

沖田、急に狂ったように笑い出す。

沖田 何でそんな冷静でいられんだよ。

永倉 だって他に方法がないんですもの。

沖田 先生らだけで、勝手にすりゃいいじゃない。
あのねえ。順番守らないと、賽子、振れな
いの。誰かひとり欠けても続けられないん
だってば。

松原 ……もういい。もういい! こんなゲーム。
斉藤先生が見つけてこなかったらこんなこ
とにならなかったのに。

齊藤 沖田先生だって、乗り気だったじゃないか。
こんなことになるってわかったら、ハナカ
らやんなかったよ。

沖田 そうやって事態が悪くなれば、誰かのせい
にするのか。おまえ、塾の子売ったときも、
そうやって悪い友達のせいにして逃げたん
だろ。

永倉 ……

沖田 ……

永倉 答えろよ。

松原 永倉先生!

沖田 ……あんたは神か。

沖田、去る。

松原 (永倉に) ちょっとキツ過ぎじゃないですか。

永倉 松原君だって結構言ってたよ。

松原 一緒にしないで下さいよ。確かに短気になっ
てましたけどね。あんた程無神経じゃない。
沖田先生出てったじゃないスカ。

齊藤 いや、あれはうんこ?

松原 疑えたら何でもいいのか。

永倉、賽を振り、銀を剥がす。

永倉 『右手で右の手首を掴む』か…。

松原 あ、それって、絶対不可能ですよ。

永倉 そうか?

松原 だってほら、右手でどうやっても…。

永倉、試そうとする松原の右手首を掴む。鐘が鳴る。

松原 え?

永倉 「自分の」手首とは書いてない。

松原 ……ああ。

斉藤に賽を渡す。斉藤、駒を進めて銀を剥がす。お題
は『による』。

齊藤 『による』? 何だよ! によるっ
て? 動詞なのか?

その頃沖田、廊下で風に当たっている。

齊藤 私、どうすりゃいいんだよ。

永倉 によるしかないんじゃないですかあ。

齊藤 だからによるの意味がさ。

永倉、職員室を出る。

松原 ニュアンスでこういう感じかなくなってないで
すか。私はありますけど。

齊藤 え? あんの?

松原 自分なりにによるしか。

齊藤 ……ええ?

齊藤考える。そしていきなり、

齊藤 によによー！

鳴らない。

齊藤 違うか。…によ、によーん。

鳴らない。

齊藤 によによによーによによによによによによによによによーによによ。

松原 あもう全然駄目。

齊藤 何、他人事と思つて。あんたもやれよ。

松原 え？

齊藤 そんなんじゃないってわかるんだろ。じゃあ、やってみせてくれよ。

松原 お、俺の番じゃないんですから。齊藤先生がやらなきゃ。

齊藤 …によによによっ！ によによによっ！ によによによによによによっ！

鳴らない。いろいろ試す。永倉、廊下の沖田のもとへ現れる。

沖田 自分で間違ってるの、わかった。でも…。

永倉 何で断らなかつた？

沖田 …。

永倉 自分で間違ってるってわかってて援交勧めた？

沖田 あんたに関係ないでしょ。

永倉 関係ないことない。

沖田 いいえ。私と先生は全く無関係です。

永倉 俺の生徒だったんだよ。

沖田 ？

永倉 おまえの言う塾の友達。

沖田 え？

永倉 俺、最初は高校で教えてた。その子なあ、その事件以来引き籠もっちゃってさ。見知らぬ親爺に犯されそうになったから？ 違うな。友達に裏切られたからだ。誰も信じられないって。

沖田 怖かったんだよ！ だって、調子合わせなきゃ、すぐにこっちが外しの対象になる。

もう、イジメられるのやだったから。実際断つたのに、脅されて。やらなきゃ、おまえ売って言われて。でも、どうしても嫌だったから、あの子が本当にやられちゃう前に、ホテルに着いたらすぐに、隠れた私らが親父気絶させて金だけ取って逃げたんだ。ホント言うと、そのこと、今日まで、全然忘れることができなくて。でも…。

永倉 …謝れよ。

沖田 …。ごめんなさ…。

永倉 俺にじゃねえよ！ その子にだよ！ その

子は今も、病院に通ってる。他人のためにこれ以上人生台無しにされたかないよな、もう二十五だ。普通の生活しながら、普通の生活続けるためにカウンセリング受けるよ。行って謝って来いよ！ 自分の代わりに犠牲になってもらってすいませんでしたって、そんな私がのうのう教師なんかやってすいませんでしたってよ！

ううう…。

沖田 教師をやったことを言ってるんじゃないか。よ。のうのうとやってることがだよ。

永倉 …。

おまえさ、苛める側の気持ちも苛められる側の気持ちも知ってるんだろ。おまえみたいな奴が教師になるべきじゃないねえの。双方理解できるんだからよ。…俺にはわからなかつた。それが公務員は安定してるだの、生徒に嫌われないよう要領かまさないや馬鹿だの言ってるから鐘が鳴るんだろ。あの鐘で教師辞めるなんて考えてないだろ。うな。

沖田 …。

ただ。まだ、その子が学校に来てるとき…、仲のいい塾の友達の話が聞かされたことがあった。その子は、ええと、明るくて、頭も良くて、ピアノ上手くて、人気あったのに、自分みたいな地味でダサイのでも友達に

なってくれて。：憧れだったってなあ。

沖田、しゃがんで、顔を手で覆う。

沖田
それが原因で、その学校クビになったんだね。

永倉
うん。あ、でもその前にシャワー室覗いて見つかったりもしたけど。

沖田
：。。

永倉
やっぱそっちなかな？ あれ？

沖田
：私がその塾の友達だって、ここに赴任して来た時から知ってたの？

永倉
ああ。親御さんから写真貰ってたから。何で今まで言わなかった？

沖田
：綺麗な顔だったし、このネタで先生の体強請る計画立ててて。でもみんなに知られたから無理か。

永倉
：。。

沖田
私って、いろんな人の人生滅茶苦茶にしてるね。

永倉
そうだね。

沖田
どうやって謝ったらいいの。。

永倉
土下座研究会に相談してみる。

沖田
：戻って謝る。

永倉
？

沖田
私が教師辞めないうちに言ってくれてるんだろ。

永倉
：おまえが賽子振らないと順番止まんだよ。

永倉、職員室に戻る。
職員室。まだよによるを試しているふたり。

永倉
：まだ、やってたのか。

斉藤
によによによによ！(そんなこと言ってもなあ)

松原
によによによによ！(わからないんですから)

永倉
わかんねえって。によによによによによによに。

斉藤
こんなのわかんねえよ。大体、卑怯だぞ。日本語じゃねえだろ。この前もハングルで書いてやがったし。ていうかハングルが何かすら知らなかったのに。あれ訳すのだった

て図書室に籠もって。。

鐘が鳴る。

斉藤
だから何で鳴るんだよ。ああもう！

松原
まあ、でもクリアできたんだし。腑に落ちんわ。結局によによるってわからないじゃねえか。今の私の行動の何処がによ

よってたんだ？ ああ、もう。

松原
まあまあ。斉藤先生、そんなによによらないで。

斉藤
ああ？

時間経過。
沖田のみ職員室。松原が何処から戻って来る。

松原
何処にもないよ。卵。くそ、まるのみじゃなくてもいいなら、購買部に玉子サンドがあったのに。

沖田
すぐそのスーパーにはあるだろうなあ。すいません。沖田先生。もう、駄目だ。クリア不可能だよ。『卵まるのみ』。

松原
何処かにあるって。絶対。

沖田
ただこれだけ捜してないんだ。食堂も購買部も家庭科室も教室も。

松原
ほら、木を見て森を見ずって言うじゃない。森って、そんな卵、あっても飲めないし。ああ、もう。

沖田
へこむの勝手だけど、イライラ外に出さないでよ。こっちまで気が減入るじゃない。

松原
イライラもするでしょうが！ こんな毎日繰り返してたら。買い物にも行けない、パチンコも行けない。セクキャバもデリヘルも。

沖田
。。

沖田
。。

松原 そうだよなあ。いつまでもこんな禁欲続く

わけないよなあ。沖田先生、もし、僕らが

帰ることができないなら、選択肢って限ら

れてますよねえ。

沖田 何の話？

松原 いいでしょ別に。

松原、沖田に近づく。

沖田 近づかないで。

松原 元に戻っても、あの話、黙ってますから。

沖田 卑怯者。

松原 好きなんです。

沖田 短絡的過ぎ。やめて。

永倉、ふたりの状況を扉の陰から覗いている。

沖田 永倉先生。

ふたり、飛び起きて、離れる。

永倉 席外してたほうがいいですか。

沖田 違うの！ 松原先生が無理矢理。

永倉 ええ。それは見てましたから。

松原 (永倉に言い訳するように) だって、こんな

なんだ。仕方ないでしょ。

永倉 うん。仕方ない。

沖田 ちよっと。

永倉 でも、抜け駆けはずるい。俺も斉藤先生も

性欲、表面張力起こしてるよ。

沖田 ちよっと！

松原 あんたと違うよ。気持ちがあるからこそ…。

永倉 長年最前に行っているダッチワイフにだって

情は湧きますよ。

沖田 ダ…。

松原 一緒にするな。

永倉 あったよ、卵。

松原 え？

永倉 理科室に飾ってあった。

永倉、松原に卵を渡す。

松原 飾って…、これ何の…。

永倉 ユーレイカレエダカマキリ。

松原 カマ…。

永倉 マレー半島に生息だって。そうなんだよ。

別に『鶏』って限定されてないんだ。卵は卵。

俺の着眼点を寝かせて下さい。薫製って書いて

てたくらいだから食べられるでしょ。

松原 何言ってるんですか、これ、剥製じゃない

ですか！

永倉 ああ、剥製って読むの？ あれ。他にない

んだから、仕方ないっしょ。

松原 こんな食えるわけじゃないですか！

永倉 生きてる方がよかった？

松原 どっちにしたってカマキリなんて。

永倉 食わなきゃ、鐘鳴らないんだから。

松原 だったら先生これ食べますか！

永倉 てめえのお題だろ。

松原、びびる。

永倉 はい、アーン。

永倉、少ししか開けない松原の口に卵を無理矢理押し込む。松原、飲み込む。鐘が鳴る。

永倉 お、頑張った。

松原、吐きそうになるのを慌てて手で押さえて、職員室を出ようとするところへ。斉藤急いで戻って来る。

斉藤 博多研究会の部室に、明太子が入ってたん

だけど、これもたまごだよ！ 松原君！

松原、恨めしい苦笑を浮かべて教室を出ていく。

斉藤 あれ？

永倉 あ、もうクリアしました。

斉藤 そうなの？ 何だ。いい着眼点だと思った

のに。

永倉 松原先生は立派でした！ はい次、沖田せ

んせ。

沖田 …。

永倉 何？ 早く賽子放れよ。

沖田 …うん。

時間経過。

齊藤の駒、アガリのすぐ側まで来ている。

腹痛に苦しんでいる松原。

沖田 よし。

齊藤 『一度だけ、命令をパスすることができ』

これも残ってる。沖田先生と同じあの場所に止まってもパスできる。

永倉 ええ。

松原 齊藤先生…、さ、賽子を。

齊藤、目頭を押さえる。

永倉 齊藤先生？

齊藤、みんなに頷いて賽を振る。

齊藤 三(出目)。

沖田が止まったのと同じマスに止まる。

斎藤 ああ。

沖田 『ふりだしに、戻る』…齊藤先生！

齊藤 …パス。

鐘が鳴る。全員、肩を抱いて喜び合う。

永倉 これであと一マス。何を出してもアガリ。

松原 オーバーしてもアガリ。

齊藤 本当にオーバーしてもアガリなのか？

松原 取説に書いてましたよ。

齊藤 本当に書いてたのか？

松原 何でそんなこと…。

今、ろくに見ないで書いてますなんて言うからさ。

松原 書いてるでしょ、ほら。ほらほらほら！

齊藤 本当にこれはこの双六の取説か？

松原 そうですよ。ずっと取説として使ってたじゃないですか。本物ですよ。ここにちゃんと書いてますよ。オーバーしてもアガリって。

これ松原君書き足してないか？

齊藤 活字でしょうが！

松原 まあまあ、そんなによらないで。

永倉 によよってない！

松原 そっか。遂にここまで。これで本意に反して疑うこともなくなっていい。

齊藤 自覚はあるのか。…これで、今度こそ。間違はなく、確実にあがれるんスね。痛くて。

松原 ちよっと、その痛がり方、普通じゃないんじゃない？

沖田

永倉 腹の中で孵化したんじゃないか？

松原 え？

永倉 ちっちゃいカマキリが、外に出たいよーってさ、お腹の中、ちよっとずつ切ってるんじゃないか。

松原 辞めて下さいよ！

永倉 ちっちゃいのがうようよいいるのと、これくらい(赤子サイズ)のが一匹宿ってるのとどっちが嫌？

松原 どっちも嫌です！ 宿ってるって言わないで下さい！ 痛くて。

齊藤 辛いならツッコまなきゃいいのに。

沖田 やっと元に戻る…。

永倉 まだ泣くなよ…。もうちよっとだろ。

沖田 うん。

齊藤 松原君。

松原

四(出目)。

松原 いち、に…さん、よん(出目)。

全員 『右隣の人の頬を抓る』

沖田 齊藤先生、今まで何度も何度も何度も抓って、すいませんでした！

松原 松原先生、いっつも同じ所に止まるんだもん。

斎藤 何回抓ったか、もう、数えられないですよ！

松原

松原

松原

松原

松原

松原

齊藤 (笑顔で) 六回。

松原 ……覚えてるんですね。でも、これで最後なんです。じゃ、失礼します！

齊藤 いてててて (笑い)。

松原 いてててて (腹痛)。

鐘が鳴る。

松原 さあ、沖田先生。

沖田、賽を振る。

沖田 三 (出目)。

全員 いち、に、さん (出目)。

沖田、みんなのかけ声に合わせて赤い駒を動かす。沖田、銀を剥がす。

齊藤 どうしたんですか、沖田先生。

沖田 涙で滲んで読めないです。

齊藤 嘘泣きじゃないのか？

松原 だから何でそんなところで嘘つかなきやならないんですか。最後までこの調子？

沖田 齊藤先生、読んで下さい。

齊藤 ええ。

問。

沖田 齊藤先生？

齊藤 『全員、ふりだ…』

齊藤の台詞を遮るように、突然バッドエンディング的曲が流れる。永倉、齊藤、松原、スローモーション口パクで嘆きの演技。が、沖田の次の言葉が曲を止める。

沖田 待って！ 私も残ってる！

松原 ……え？

沖田 だから、私も残ってるんだって！『一度だけ、命令をパスすることができる』権利が！

問。

齊藤 え？

沖田 だからパスできるの！

齊藤 嘘？

沖田 ホントだって！

問。

全員 ふうふう。

松原 あああ、ビックリしたあ。大体、何でこんな『全員ふりだしにもどる』みたいなのが最後まで開かずに残ってるんだよなあ。

齊藤 じゃあ、沖田先生。当然？

沖田 パスします！

鐘が鳴る。全員、息を整える。

松原 永倉先生がクリアしたら、あとは齊藤先生

が賽を振るだけ。では、永倉先生。

永倉 ういっす。

齊藤 なあ、戻ったら、打ち上げしねえか。

松原 賛成！

沖田 ていうか、打ち上げだったんだよなあ。

齊藤 ……あそっか。忘れてた。

松原 でも、その前に病院連れてって。

齊藤 ……もう少しの辛抱だよ。

永倉、賽を振る。永倉、出た目の分だけ駒を進め、銀を剥がす。後の三人は話に気をとられている。

沖田 元の時間だと何時位になるんだろ。ほら、

開いてる店あるかなって。

齊藤 駅の方に出たらあるだろ。

沖田 駅か。長いこと行ってない。

齊藤 どうだか。

松原 ここまで徹底して疑い深いと却ってよくなってきた。駅高架の工事してたの、綺麗になってるんじゃないスカ。

沖田 だから全然変わってないんだって。

松原 あ、そっか。…イテテ。

齊藤 いろいろあったなあ…。ホント、みんなお疲れ様でした。

松原・沖田 お疲れ様！

鐘が鳴る。永倉、動かない。

齊藤 いよいよ私の番だな。

沖田 あれ？ 永倉先生いつの間にクリアしたの？

永倉 …。ああ、おう。楽勝楽勝。

齊藤 野郎共行くぞ！

松原 おおお！

沖田 永倉先生？ 何て書いてたの？

永倉 え？ ああ、『苦笑いをする』って。即クリア。

沖田 本当？

永倉 ほんとって？ あのなあ、沖田先生まで齊藤先生の伝染ったのかよ。

永倉、さりげなくマスを隠している。永倉が嘘をついていることに気づいている沖田。

沖田 松原先生！

松原、確かに容態が悪化している。永倉、松原の方に気を取られる。しかし、沖田が叫んだのには別の目的があった。永倉の油断を誘うという目的が。

沖田、素早く永倉の手をどけ、百人一首の手練れさながら、永倉が隠そうとしていたマスから距離を置かせ

沖田 …『苦笑いをする』は出たよ。序盤で、こ

の双六、二つと同じ文章は書かれていない。教えてくれたの、永倉先生よ。

沖田、マスに書かれた文字を読む。

沖田 『二巡するまで、全ての効果を受け付けない』

永倉 …。

沖田 嘘…。

齊藤 これって沖田先生の『今後一度だけ、全員の駒を先頭の駒のいるマスまで移動できる』権利も永倉先生には無効ってことか？

松原 そんな…ばかな。

永倉 ハハハ。

沖田 …どうしよう。

齊藤 考えよう。

松原、腹痛が酷く、虫の息。

永倉 …みんな、先にあがって下さい。

齊藤 …いいの？

沖田 いいのかじゃないよ。齊藤先生がここまで

来れたの、永倉先生のアドバイスがあったからじゃない。それに、私が『今後一度だけ、全員の駒を先頭の駒のいるマスまで移動できる』のマスに止まったとき、全員である作戦考えたのも永倉先生だよ。それをい

齊藤 だったらどうすんだ。振らなきゃ、待ってるだけでどうにもならないし、賽を振ったら、その時点であがり決定なんだ。

沖田 …わかってるよ。…だけど、こんな形で、

権利使えない。

齊藤 何言ってるんだよ。この期に及んで。

沖田 権利は私にあんの。

永倉 沖田先生。権利使え。

沖田 永倉先生？

永倉 シャーねえよ。こんなマスに止まった俺の運がなかったんだ。

沖田 嫌だよ。

永倉 あのなあ。次に誰かあがるのにどれだけかかると思ってるんだ。齊藤先生、賽を振って下さい。

齊藤 けど…。

沖田 …考える時間もないの？

永倉 (首を振る) このままだと、松原先生が死んでしまっ

齊藤 ていうか、死んでるんじゃないのか。

永倉 生きてるよ！ そこまで疑うな。

齊藤 …もう、賽を投げるぞ。

沖田 沖田先生、権利を使うんだ。

永倉 …。

沖田 齊藤先生、お願いします。

齊藤 …わかった。先に行ってる。

齊藤、賽を振る。賽の目は何が出てもいい。

齊藤 一（出目）。

齊藤、駒を進める。

齊藤 …あがった。

鐘が長い間鳴り響く。

永倉 沖田！ 権利の行使を！

沖田 先生！

永倉 早く！

沖田、お守りを永倉に託す。

永倉 ちゃんと謝って来いよ…。

沖田 永倉先生…。

沖田、永倉から離れる。

沖田 全員の駒を先頭の駒のいるマスまで移動できるとする権利行使！

三つの鐘が鳴り響く。松原は意識を失い、齊藤に抱えられている。

永倉 …。

沖田と齊藤、永倉と対峙し、じっと見つめている。四人とも最初と較べて遥かに格好良い。永倉小さく手を振る。去りゆく三人。見送る永倉。暗転

現実時間に戻って来た沖田達三人。

齊藤は松原を負っている。

時計が進んでいる。

齊藤 戻った…。沖田先生ほら！（時計）元に戻ってる。

沖田 はい。

問。

沖田 永倉先生…。

齊藤 とにかく先に松原先生を。

沖田 そうですね。

齊藤 救急車呼ぶより、松原君の車借りた方が早いな。沖田先生、松原のポケットから車の

キー出して。

沖田 うん。

齊藤 サンキュ。じゃ、行って来る。

沖田 お願いします。病院着いたら何処の病院か

教えて下さい。

齊藤 こいつの実家に連絡頼むわ。入院の手続き

とかしなきゃならんだろうし。

沖田 齊藤先生。

齊藤 ？

沖田 …永倉先生のこと、他の人にどう説明すればいいんでしょうね…。実家の親御さんにも言わないといけないでしょうし。

齊藤 明日また考えよう。取り敢えず今日は帰って休もう。俺も松原先生病院に連れてった

ら帰って寝るよ。

沖田 わかりました。

齊藤、松原を担いで出て行く。

沖田 …。永倉先生。

沖田振り向くと永倉がいる。更に荒んだ格好の永倉。

永倉 よう。

沖田 永倉先生!? どうして?

永倉 アガったんだ。

沖田 え?

永倉 アガったんだ。

沖田 だって今別れたばかりじゃあ…あ、そっか。

車のエンジン音。

永倉 あの二人はどうしてる?

沖田 松原君を病院に、今ほら齊藤先生が車で。

永倉 まだ病院? まだお腹痛治ってないの!?

沖田 私達、永倉先生と別れてまだ十分も経って



ないですよ…。

永倉 …こっちは。5ヶ月だ。

沖田 ずっと待ってました。

永倉 はいはい。十分な。

ふたりとも笑っている。

沖田 …お帰り。

永倉 …ただいま。

ふたりとも次の言葉を考えている。

終わり。

沖田 …私達が帰ってから大変だった？

永倉 もう。後でゆっくり話すけどね。あの後変なお題ばっかで大変だったのよ。

沖田 何でお姐言葉？

永倉 ああ、ずっとこれだったから。癖になっちゃった。二年も経てば変わるよ。…二年ずっと考えたんだけどさ。

沖田 うん。

永倉 俺…。

告白モード？

沖田 …え？

永倉 宗教起こすことにした。

沖田 …え？

永倉 ずっとひとりで暇だったからさ、悟りとか開いちゃって。教祖松原に頼むことにした。あいつ浮けるし。

沖田 何で！